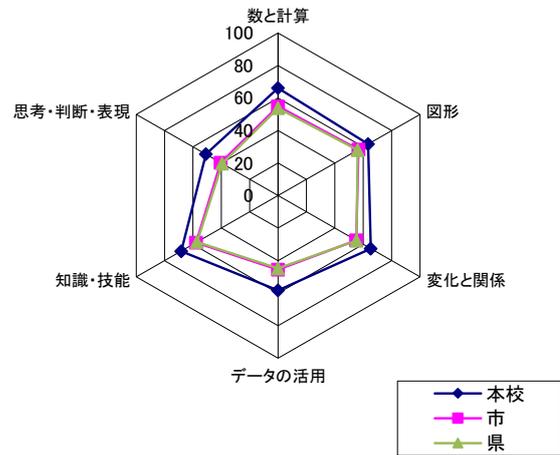


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.1	54.9	53.7
	図形	63.4	56.6	56.1
	変化と関係	65.3	55.1	55.2
	データの活用	58.3	45.5	44.8
観点	知識・技能	68.3	57.8	57.2
	思考・判断・表現	50.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本領域の平均正答率は66.1%で、県の正答率を12.4ポイント上回った。</p> <p>○「小数第一位÷整数＝小数第二位の計算をする」の平均正答率71.8%で、県の正答率を21.5ポイント上回った。</p> <p>●「83兆は83億の何倍か答える」は県の正答率を11.0ポイント上回っているが、本校の平均正答率は36.9%と高くはない。</p>	<p>・基本的な技能の向上を目指して、朝の学習や家庭学習などの時間を活用し、繰り返し練習問題に取り組ませる。</p> <p>・大きな数の表し方については、日常生活や他の教科の学習の中で用いようとする態度や、目的に応じて用いることができる力を育てる。</p>
図形	<p>○本領域の平均正答率は63.4%で、県の正答率を7.3ポイント上回った。</p> <p>○「180度より大きい角の大きさを求める」の平均正答率は58.3%で、県の平均正答率を12.8ポイント上回った。</p> <p>●「三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ」の平均正答率は、県の正答率を1.0ポイント上回っているが、本校の平均正答率は49.5%と高くはない。</p>	<p>・三角定規の角度については、繰り返し練習問題に取り組ませることで、定着を図る。</p> <p>・身近なものの角度を実感できるような授業を展開し、角度についての興味を高め、理解を深めていく。</p>
変化と関係	<p>○本領域の平均正答率は65.3%で、県の正答率を10.1ポイント上回った。</p> <p>○「30円を1とみたとき、90円の大きさを答える」の平均正答率は83.5%で、県の正答率を15.2ポイント上回った。</p> <p>●「割合を使った比べ方について説明する」は県の正答率を14.3ポイント上回っているが、本校の平均正答率は43.7%と高くはない。</p>	<p>・割合については、問題の場面を図や表に表すことで、内容を把握させ、理解を促していく。また、日常の身近な場面を捉えて、基準量や比較量を意識させたり、数多くの問題に触れさせたりすることで、習熟を図っていく。</p>
データの活用	<p>○本領域の平均正答率は58.3%で、県の正答率を13.5ポイント上回った。</p> <p>○「表から分かることとして正しいものを選ぶ」の平均正答率は66.0%で、県の正答率を20.6ポイント上回った。</p> <p>●「グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明することができる」の平均正答率は、県の正答率を9.7ポイント上回っているが、本校の平均正答率は18.5%と高くはない。</p>	<p>・折れ線グラフや棒グラフについては、他教科でも活用するようにし、継続的・横断的に指導をしていく。</p> <p>・日頃から、グラフを比較し共通点や相違点を正確に読み取る活動に取り組ませ、グラフについての理解を深めていく。また、相手に伝わりやすい説明ができるように、日頃から順序立てて考えさせ、伝え合う活動に取り組ませる。</p>